設立迄の經過及動揺

大正八年當地に勞愛會なるものが創立された。俸給生活者、職工商人等あらゆる種類の階級及職業の人々約一千五百名を會員とした一種の社會問題研究團体であつたがさしたる活動をなさず約二ケ月間經續したが斷々團体の常として早くも自然消滅するに至つた

其後十一年終に至つて前記勞愛會に培はれたる當地の勞働團体指導者等に依つて勞働問題及社會問題の研究を主とする一種の思想團体が組織されたが大正十二年一月に至つて日本勞働總同盟に加盟し總同盟岩山支部と命名し全委員（委員長）に佐々木銀一を挙げ事務所を岩山市[illegible]町佐々木銀一方[illegible]當時の會員は約[illegible]であつた

又他方に於て田中喜之助（鑄物工）入江秀夫、高木精一、加藤一之助、竹内 等の宣傳運動が効を奏して市内に前記と別個の單獨なる岩山勞働組合組織され發會式及記念演説會を大正十二年三月十八日岩山劇場に挙行した 而して関西同盟會から西尾、平井、中村、大矢、藤岡、金正、山口、野田、三田村等の諸幹部及 吉田頗岱弁護士、農民組合行政長及自由聯合派から和田、生島、逸見（吉）大串、宮河原等来援出席した 當時の會員は市内のタオル工場職工、鐵工、旋盤工、仕上工、鑄物工、製罐工